



## 2023年3月期 決算短信(日本基準)(非連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道 TEL 03-6277-0123

定時株主総会開催予定日 2023年6月22日 有価証券報告書提出予定日 2023年6月23日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期の業績(2022年4月1日～2023年3月31日)

#### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	9,288	2.2	2,417	10.2	2,426	10.2	1,506	8.4
2022年3月期	9,090	17.5	2,194	1.4	2,201	1.4	1,389	4.1

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	155.49		15.8	21.2	26.0
2022年3月期	143.46		17.1	22.0	24.1

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期 百万円 2022年3月期 百万円

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	12,436	10,285	82.7	1,061.79
2022年3月期	10,501	8,779	83.6	906.30

(参考) 自己資本 2023年3月期 10,285百万円 2022年3月期 8,779百万円

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	1,618	25	24	8,771
2022年3月期	1,073	37	21	7,102

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期		0.00		0.00	0.00			
2023年3月期		0.00		0.00	0.00			
2024年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

### 3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	7.7	2,300	4.9	2,300	5.2	1,426	5.3	147.21

## 注記事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 有
以外の会計方針の変更	: 無
会計上の見積りの変更	: 無
修正再表示	: 無

### (2) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期	9,687,400 株	2022年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2023年3月期	270 株	2022年3月期	270 株
期中平均株式数	2023年3月期	9,687,130 株	2022年3月期	9,687,160 株

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 貸借対照表 .....	5
(2) 損益計算書 .....	7
(3) 株主資本等変動計算書 .....	8
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(会計方針の変更) .....	10
(持分法損益等) .....	10
(セグメント情報) .....	10
(1株当たり情報) .....	10
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当期の経営成績の概況

当事業年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）におけるわが国経済は、緩やかに持ち直しの動きが続いているものの一部に弱さがみられ、また海外景気の下振れによるリスクや物価上昇、供給面での制約等による影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、4年ぶりのマイナス成長となりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2022年（1月から12月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は前年比2.6%減の1兆6,305億円となり、その内訳は、紙の出版物については同6.5%減の1兆1,292億円、電子出版については同7.5%増の5,013億円と、紙の市場が前年を下回った一方で、電子出版市場の拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当事業年度における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

#### ① ライトノベル

当事業年度の刊行点数は前期を大きく上回る273点（前期比60点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、TVアニメ化が決定した『とあるおっさんのVRMMO活動記』等の人気シリーズの続刊が引き続き堅調に推移いたしました。また、女性向けファンタジーレーベル「レジーナブックス」の新作『継母の心得』が増刷となる好調な売れ行きを示し、さらに女性向け小説と親和性の高い電子書籍販売においても販売数を伸ばして同レーベルの売上を牽引いたしました。

結果、当事業年度の売上高は想定通りの着地となりましたが、前期における『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送に伴う原作小説売上の大幅伸長の反動減から、前期を僅かに下回る金額で着地いたしました。

#### ② 漫画

当事業年度の刊行点数は前期を上回る161点（前期比23点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、シリーズ累計113万部を突破した『素材採取家の異世界旅行記』や同95万部を突破した『最後にひとつだけお願いしてもよろしいでしょうか』等の大型人気シリーズの続刊が引き続き好調に推移いたしました。また、漫画と親和性が非常に高い電子書籍販売につきましては、販売体制の強化や拡販施策を推進したこと等により、当ジャンルの電子書籍売上高は前期から大幅に増加いたしました。

結果、当事業年度の売上高は『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送に伴う特需により大きく伸長した前期をさらに上回る金額で着地いたしました。

#### ③ 文庫

当事業年度の刊行点数は前期を上回る159点（前期比17点増）となりました。キャラ文芸ジャンルからは『後宮の棘』『あやかし狐の身代わり花嫁』の第2巻等、複数書籍を刊行し、同ジャンルの強化を推進してまいりました。さらに、青春小説として、第12回ドリム小説大賞の受賞作である『さよなら私のドッペルゲンガー』を刊行する等、取り扱いジャンルの拡大にも引き続き注力してまいりました。

結果、当事業年度の売上高は前期を上回る金額で着地いたしました。

#### ④ その他

当事業年度の刊行点数は7点（前期比2点減）となりました。強化中の絵本ジャンルから、第12回絵本・児童書大賞にて優秀賞を受賞した作家の新作絵本『あしあし ぱあっ』を刊行し、同ジャンルの拡大に注力してまいりました。また、当社Webサイトの人気ビジネス連載を書籍化した『話しやすい人になれば人生が変わる』を刊行する等、特定ジャンルに依存しない幅広いジャンルにおける書籍刊行を推進いたしました。

結果、当事業年度の売上高は前期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当事業年度の売上高は、『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送により大幅に伸長した前事業年度の売上高を上回る9,288,579千円（前期比2.2%増）となりました。

利益面におきましては、主に前期7月から9月に実施したテレビCM放映を中心とした当社サービスの認知度向上に向けた大型成長投資により一時的に増加した販売費及び一般管理費が減少したこと等から、当事業年度の営業利益は2,417,261千円（前期比10.2%増）、経常利益は2,426,044千円（同10.2%増）、当期純利益は1,506,274千円（同8.4%増）と前期を上回る金額で着地いたしました。

結果、売上高は6期連続で、利益は5期連続でそれぞれ過去最高を更新いたしました。

(注) シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

## (2) 当期の財政状態の概況

### ① 資産

当事業年度末の流動資産は、前事業年度末に比べ1,957,721千円増加し、12,098,101千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比1,669,145千円増）したこと並びに売掛金が増加（同162,880千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ23,314千円減少し、337,900千円となりました。これは主に、無形固定資産が減少（同12,727千円減）したこと及び投資その他の資産が減少（同6,306千円減）したことによるものであります。

### ② 負債

当事業年度末の流動負債は、前事業年度末に比べ408,662千円増加し、2,109,950千円となりました。これは主に、未払法人税等が増加（前事業年度末比221,955千円増）したこと、未払金が増加（同88,799千円増）したこと及び返金負債が増加（同30,268千円増）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ19,470千円増加し、40,328千円となりました。これは主に、長期借入金の増加（同20,795千円増）によるものであります。

### ③ 純資産

当事業年度末の純資産は、前事業年度末に比べ1,506,274千円増加し、10,285,722千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物の残高は前事業年度末より1,669,145千円増加し、8,771,740千円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

### ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは1,618,854千円の収入（前事業年度は1,073,594千円の収入）となりました。主な増加要因は、税引前当期純利益の計上によるものであります。また、主な減少要因は、法人税等の支払によるものであります。

### ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは25,848千円の収入（前事業年度は37,863千円の支出）となりました。これは主に、出資金の払込による支出8,000千円並びに有形固定資産の取得による支出4,849千円が発生した一方で、敷金及び保証金の回収による収入38,697千円が発生したことによるものであります。

### ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは24,442千円の収入（前事業年度は21,605千円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出24,253千円が発生した一方で、長期借入れによる収入50,000千円が発生したことによるものであります。

#### （4）今後の見通し

当社の属する出版業界におきましては、電子出版物の市場は堅調に拡大していくものと思われます。

そのような状況下、当社におきましては、編集部人員の積極的な採用と育成を推進したことにより編集部門の体制がさらに強化されたこと等から、次期の書籍の刊行点数につきましては前期を上回る676点（前期比76点増）を計画しており、売上高は前期を上回ることを見込んでおります。

費用面に関しましては、良質の作品を創出し商品力の向上及び売上拡大を図る施策として、より多くの優秀な作家及び漫画家の確保を目的とした印税率の変更等を予定しており、原価率が前期より増加する見込みです。また、事業規模拡大に向けた施策として、優秀な人材の拡充及び本社の移転を予定しており、人材及び設備に関する先行投資の発生を見込んでおります。

これらの結果、次期の業績見通しにつきましては、売上高は10,000百万円（前期比7.7%増）、営業利益は2,300百万円（同4.9%減）、経常利益は2,300百万円（同5.2%減）、当期純利益は1,426百万円（同5.3%減）を見込んでおります。

※本資料における予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。予想に内在するさまざまな不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の業績と異なる場合がありますので、ご承知置きください。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、国内の同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

なお、今後の I F R S（国際会計基準）の適用については、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,102,594	8,771,740
売掛金	2,637,541	2,800,422
製品	192,406	251,162
仕掛品	155,389	206,227
前払費用	30,424	25,712
その他	22,022	42,836
流動資産合計	10,140,379	12,098,101
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備 (純額)	20,490	19,751
工具、器具及び備品 (純額)	9,343	7,001
リース資産 (純額)	4,500	3,300
有形固定資産合計	34,333	30,053
無形固定資産		
ソフトウェア	46,569	33,842
無形固定資産合計	46,569	33,842
投資その他の資産		
出資金	—	8,000
関係会社株式	9,419	—
保険積立金	8,000	8,000
敷金	140,784	95,623
長期前払費用	2,693	492
繰延税金資産	93,360	132,635
その他	26,052	29,252
投資その他の資産合計	280,311	274,004
固定資産合計	361,214	337,900
資産合計	10,501,594	12,436,001
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	52,096	74,044
1年内返済予定の長期借入金	20,088	25,040
未払金	600,211	689,011
未払消費税等	50,897	72,899
未払費用	30,957	45,594
未払法人税等	364,757	586,712
預り金	22,732	24,671
賞与引当金	50,593	49,450
投稿インセンティブ引当金	28,354	28,898
返金負債	427,174	457,442
前受金	52,119	54,858
リース債務	1,304	1,324
流動負債合計	1,701,287	2,109,950
固定負債		
長期借入金	17,164	37,959
リース債務	3,694	2,369
固定負債合計	20,858	40,328
負債合計	1,722,146	2,150,279

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金		
資本準備金	853,824	853,824
資本剰余金合計	853,824	853,824
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	7,062,436	8,568,710
利益剰余金合計	7,062,436	8,568,710
自己株式	△637	△637
株主資本合計	8,779,448	10,285,722
純資産合計	8,779,448	10,285,722
負債純資産合計	10,501,594	12,436,001



## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	9,090,196	9,288,579
売上原価		
製品期首棚卸高	193,359	192,406
当期製品製造原価	2,048,128	2,349,132
合計	2,241,488	2,541,539
製品期末棚卸高	192,406	251,162
製品売上原価	2,049,082	2,290,377
売上総利益	7,041,114	6,998,202
販売費及び一般管理費	4,846,680	4,580,941
営業利益	2,194,434	2,417,261
営業外収益		
受取利息	61	75
前払式支払手段失効益	8,668	7,377
その他	400	1,529
営業外収益合計	9,130	8,982
営業外費用		
支払利息	227	197
その他	1,554	2
営業外費用合計	1,782	199
経常利益	2,201,782	2,426,044
特別損失		
関係会社株式評価損	—	9,419
特別損失合計	—	9,419
税引前当期純利益	2,201,782	2,416,624
法人税、住民税及び事業税	773,084	949,625
法人税等調整額	38,977	△39,275
法人税等合計	812,061	910,350
当期純利益	1,389,721	1,506,274

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計			
当期首残高	863,824	853,824	853,824	5,766,272	5,766,272	△403	7,483,518	7,483,518
会計方針の変更による累積的影響額				△93,557	△93,557		△93,557	△93,557
会計方針の変更を反映した当期首残高	863,824	853,824	853,824	5,672,715	5,672,715	△403	7,389,960	7,389,960
当期変動額								
当期純利益				1,389,721	1,389,721		1,389,721	1,389,721
自己株式の取得						△234	△234	△234
当期変動額合計	—	—	—	1,389,721	1,389,721	△234	1,389,487	1,389,487
当期末残高	863,824	853,824	853,824	7,062,436	7,062,436	△637	8,779,448	8,779,448

当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計			
当期首残高	863,824	853,824	853,824	7,062,436	7,062,436	△637	8,779,448	8,779,448
当期変動額								
当期純利益				1,506,274	1,506,274		1,506,274	1,506,274
自己株式の取得						—	—	—
当期変動額合計	—	—	—	1,506,274	1,506,274	—	1,506,274	1,506,274
当期末残高	863,824	853,824	853,824	8,568,710	8,568,710	△637	10,285,722	10,285,722

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	2,201,782	2,416,624
減価償却費	26,009	27,597
関係会社株式評価損	—	9,419
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,453	△1,142
投稿インセンティブ引当金の増減額 (△は減少)	803	544
返金負債の増減額 (△は減少)	△37,128	30,268
受取利息及び受取配当金	△61	△75
支払利息	227	197
売上債権の増減額 (△は増加)	22,387	△162,880
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△21,501	△109,593
仕入債務の増減額 (△は減少)	496	21,948
未払金の増減額 (△は減少)	25,244	89,523
その他	△85,801	31,121
小計	2,138,911	2,353,551
利息及び配当金の受取額	61	75
利息の支払額	△227	△197
法人税等の支払額	△1,065,150	△734,575
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,073,594	1,618,854
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△8,389	△4,849
無形固定資産の取得による支出	△29,474	—
出資金の払込による支出	△12,565	△8,000
出資金の回収による収入	12,565	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	38,697
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37,863	25,848
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	50,000
長期借入金の返済による支出	△20,088	△24,253
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,283	△1,304
自己株式の取得による支出	△234	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,605	24,442
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,014,125	1,669,145
現金及び現金同等物の期首残高	6,088,469	7,102,594
現金及び現金同等物の期末残高	7,102,594	8,771,740

## (5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる財務諸表への影響はありません。

(持分法損益等)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
関連会社に対する投資の金額	9,419千円	—
持分法を適用した場合の投資の金額	8,281	—
持分法を適用した場合の投資損失(△) の金額	△1,138	△8,281

(注) 関連会社に対する投資の金額は、減損処理しております。

(セグメント情報等)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	906.30円	1,061.79円
1株当たり当期純利益金額	143.46円	155.49円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益金額(千円)	1,389,721	1,506,274
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	1,389,721	1,506,274
期中平均株式数(株)	9,687,160	9,687,130

(重要な後発事象)

本社の移転

当社は、2023年5月12日開催の取締役会において、本社を移転することを決議いたしました。  
本社移転の概要につきましては、以下のとおりであります。

1. 新本社所在地

東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー19F

2. 移転時期

2023年12月（予定）

3. 移転目的

当社の業容拡大及び従業員の増加に対応することを目的としております。

4. 業績に与える影響

本件が当社業績に与える影響は軽微であり、その移転費用等につきましては、2023年5月12日に公表いたしました2024年3月期の業績予想に織り込んでおります。

5. その他

同一区内での移転のため、定款変更はございません。